

令和7年度 期末評価結果

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>先端的都市研究拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>大阪公立大学（都市科学・防災研究センター）</p>
<p>評価区分 (期末評価結果)</p>	<p>B</p>
<p>評価コメント</p>	<p>本拠点は、都市をフィールドに据えて「21 世紀型レジリエント都市」のあるべき理念モデルと実践モデルを彫琢することを目的とし、人文科学的視点で遂行してきた包摂型創造都市の学術的探究に、世界的感染症や頻発化する甚大災害で得た非常時行動に備えるための行動変容に係る学術的探究を加え、シームレスなレジリエント都市のあり方を考究し実践する拠点活動を実施している。拠点としての活動は行われているものの低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。</p> <p>専門知の社会還元と現場重視、市民重視の拠点活動が継続している点は評価できる一方、特に、コミュニティ防災の取組は他大学でも地域課題に即して取り組まれていることが多く、現状では中核的になっているとは言い難い。また、2つの研究所が融合したことによる新たな研究成果の創出、発信、展開する取組が十分とは言い難い。</p> <p>今後は、先端的都市研究、コミュニティ防災研究、コンフリクトマネジメント研究の取組等の情報共有等を図りつつ、拠点としての活動を発展させるための具体的な取組について明確化するとともに、本拠点を起点とした先進的な研究を創出し、当該分野を牽引していくことが一層期待される。</p>